

2021年7月13日

千葉市長 神谷 俊一様
千葉市教育長 磯野 和美様
千葉市生涯学習部長 佐々木 敏春様
千葉市中央図書館長 中島 千恵様

としょかんふれんず千葉市
代表 皆倉 宣之
千葉市〇〇区〇〇町
電話 043-〇〇-〇〇〇〇

千葉市花見川図書館とこてはし台公民館の複合化について

要望書

千葉市は「千葉市立図書館網計画」（1970年策定）及び「千葉市図書館サービスプラン2010」（2010年策定）を廃止し、千葉市の20年先を見据えた構想として、2020年3月「千葉市図書館ビジョン2040」を策定しました。

この「千葉市図書館ビジョン2040」に基づいて、2020年11月には「効率的な施設運営及び市民の利便性向上を図るため」として、老朽化した花見川図書館を大改修し、こてはし台公民館との複合施設とすることが計画・決定されました。

花見川図書館のある花見川区こてはし台は、千葉県住宅供給公社が開発し、1972年入居が始まり、1978年こてはし図書館（現花見川図書館）が開館したことにより、この地域の人々は豊かな読書環境を得て文字・活字文化を享受できるようになりました。さらには次々に設置された小学校、中学校、保育所などと図書館との交流・連携により、子ども達の生育及び教育環境も充実し今日に至っています。このことは花見川図書館が地域住民の日々の暮らしに不可欠な公共施設として運営され、地域住民はその図書館を文化の支え、心の拠り所として捉え、相互の関係を発展させてきた成果だと私たちは考えます。

私たちは生涯学習の施設（社会教育施設）として、「花見川図書館」と「地域住民」との分かち難い発展の連鎖を後退させることのない図書館運営がされることを願い、「花見川図書館とこてはし台公民館の複合化について」以下の要望をいたします。

記

① 地区図書館としての位置づけを維持し、市の直営で運営してください。

「花見川区地域カルテ」（令和3（2021）年）によると、こてはし台中学校区の人口は確かに減少し、少子高齢化が進んでいますが、公共交通手段は路線バスのみで、その本数も少なく、公共施設は花見川図書館とこてはし台公民館のみという地域であるからこそ、その施設の在り方が重要視されるべきで

あると考えます。

現花見川図書館の面積に公民館を複合化すると、図書館は約1,200㎡から約710㎡となり、それに伴い蔵書数も約10万冊から6万冊へ減少、面積や蔵書数の減少により規模的には分館並みとなってしまいます。花見川図書館が地域に密着した安定的、継続的なサービスをするために、また花見川区全体を視野に入れた運営がされるように、地区図書館としての位置づけを維持してください。

そのために、運営は市職員（会計年度任用職員を含む）による直営を維持してください。指定管理者制度や業務委託の導入は、社会教育施設である図書館には適さないと考えます。

② 花見川図書館とこてはし台公民館の複合化再検討も含め、現状の図書館機能を維持する施設としてください。

令和2(2020)年11月13日開催「政策会議 庁議等付議事案調書」によれば、複合化の理由の第1は令和2年9月に花見川図書館の空調機が故障し、その改修には1億円弱の費用が必要である。第2には空調機以外の設備についても、昭和53年の開館以来（築42年）、大掛かりな改修工事はしておらず、故障リスクを抱えている。こてはし台公民館についても築40年を経過しており、老朽化が進んでいる。そこで「図書館ビジョン2040」では施設老朽化への対応として複合化やコンパクト化を図るとしていることから、これを契機に両施設の複合化を図るとなっています。

この花見川図書館エリアにはこてはし台居住区だけではなく1989年入居が始まった横戸台地区に加え、2011年み春野地区が加わり図書館でのおはなしの勉強会、子ども読書まつりの協力など住民の活動も大変活発に行われています。また保育所や学校との協力・連携もなされてきました。

市民にとって重要な社会教育施設である図書館や公民館を、施設の老朽化対策の視点やビジョンの方針だけで複合化してもよいのでしょうか。

この複合化に伴い、読書室（自習室）や児童室もなくなる案が示されていますが、読書室（自習室）は家庭で勉強がしにくい人にとってなくてはならない施設であり、また一般閲覧室と児童図書コーナーが約330㎡という狭い中に併設されるのであれば、子ども・大人の両者ともに使いにくいものになります。読書室（自習室）と児童室の設置は必須です。

誰もが使いやすい設計に、また地域住民や子どもたちとの連携が閉ざされることがないように、現状の図書館機能が保証される施設にしてください。

③ 市民や図書館協議会の意見を聞いてください。

「千葉市市民自治によるまちづくり条例」第9条には、市の責務として「市民の意見や提案を的確に把握し、これを市の施策に反映させるよう努めるとともに、多様な市民の活動をまちづくりに生かすよう努めます。」とあります。「的確な把握」をするには、利用者・近隣住民に十分な調査をし、市民と話し合う機会を持ってください。この地域では、複合化について意見・要望を提出している方々がいます。その意見を十分に聞き、取り入れてください。

また今回の複合化について、検討に入る段階で図書館協議会の議事として取り上げられなかったことは疑問です。図書館行政に関する重要案件は必ず図書館協議会に諮ってください。

以上